

## 血友病患者に対する家庭注射の長期観察

聖マリアンナ医大小兒科 山田 兼雄  
慶應大小兒科 福本 哲夫

1975年以来23例の血友病患者について家庭注射療法を施行して来た。これは我々の病院の外来に登録された血友病患者150例の約15%に当る。年令は3才より39才である。21例が血友病A、2例が血友病Bである。この間に最も多く家庭注射を施行した例は総計603回であり、全体として毎月5.1回注射していることになる。月平均904単位を注射していることになる。症例について検討してみると一般に家庭注射開始後1年間は開始前1年よりも注射回数が増えていた。

本治療の効果はきわめて大で、この中でも学校の欠席日数の減少が最も顕著であり、各々約 $\frac{1}{10}$ に減少した。また日常生活、社会活動などが改善され、旅行も可能となった。しかし、本治療自体の社会組織に対する影響ということと、注射の副作用時の処置の問題点など残されており、この点の討議がさらに必要である。

## ↓ 検索用テキスト OCR(光学的文書認識)ソフト使用 ↓

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

1975年以來23例の血友病患者について家庭注射療法を施行して來た。これは我々の病院の外来に登録された血友病患者150例の約15%に當る。年令は3才より39才である。21例が血友病A、2例が血友病Bである。この間に最も多く家庭注射を施行した例は総計603回であり、全体として毎月5.1回注射していることになる。月平均904単位を注射していることになる。症例について検討してみると一般に家庭注射開始後1年間は開始前1年よりも注射回数が増えていた。